

令和6年度 コンピテンシー(学修到達目標)に
関する自己評価アンケート調査結果報告書
(看護学科)

令和7年3月

浜松医科大学 IR 室（教学部門）

調査概要

1. 調査の目的

令和6年度（2024年度）看護学科4年生を対象に、コンピテンシー（学修到達目標）における自己評価アンケートを得て、教育プログラムにおける問題点や改善点を把握する。

2. アンケート実施方法等の概要

- 調査対象 令和6年度（2024年度）看護学科4年生 64名
- 調査方法 対象者にメールで通知し、Webフォームから回答を回収
- 調査期間 令和7（2025）年2月17日～2月28日
- 回答数 39件（回収率 60.9%）
- 有効回答数 39件（有効回答率 60.9%）

ディプロマ・ポリシーごとの集計結果

1. 専門知識と技能

到達度・満足度ともに、「4.対象者のニーズや臨床判断に基づく看護問題の抽出と看護計画の立案ができる」「5.看護介入に関する知識を身に付け、基本的なケアの実践ができる」と「6.実践を評価し、基本的な看護記録を作成できる」については、「よく身につけられた」の回答の割合が低下している(P.3, 図 1-1、P.4, 図 1-2)。

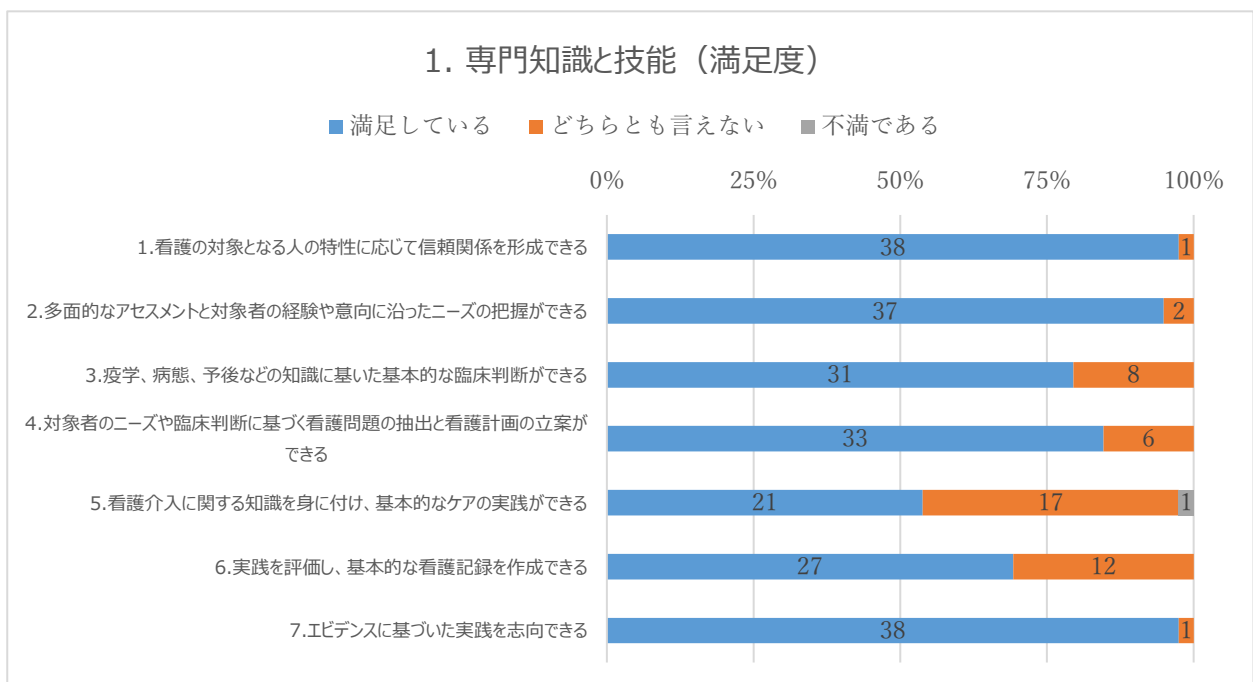
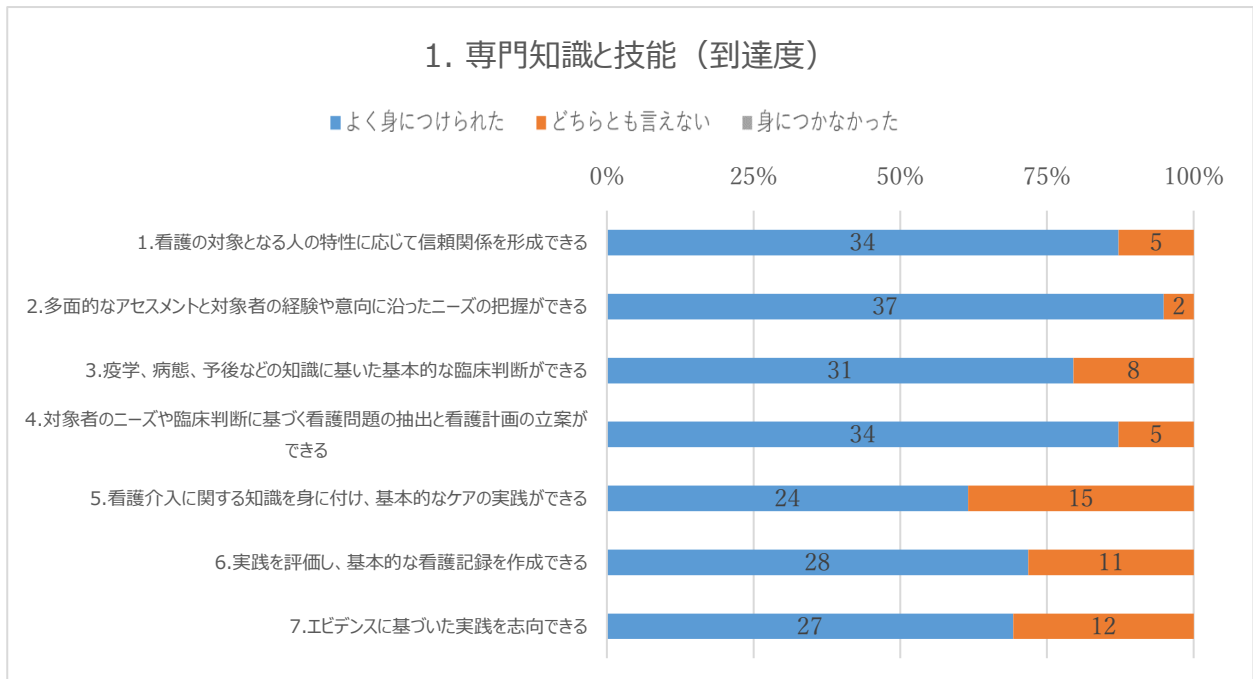


図1-1 専門知識と技能（到達度）の2か年比較

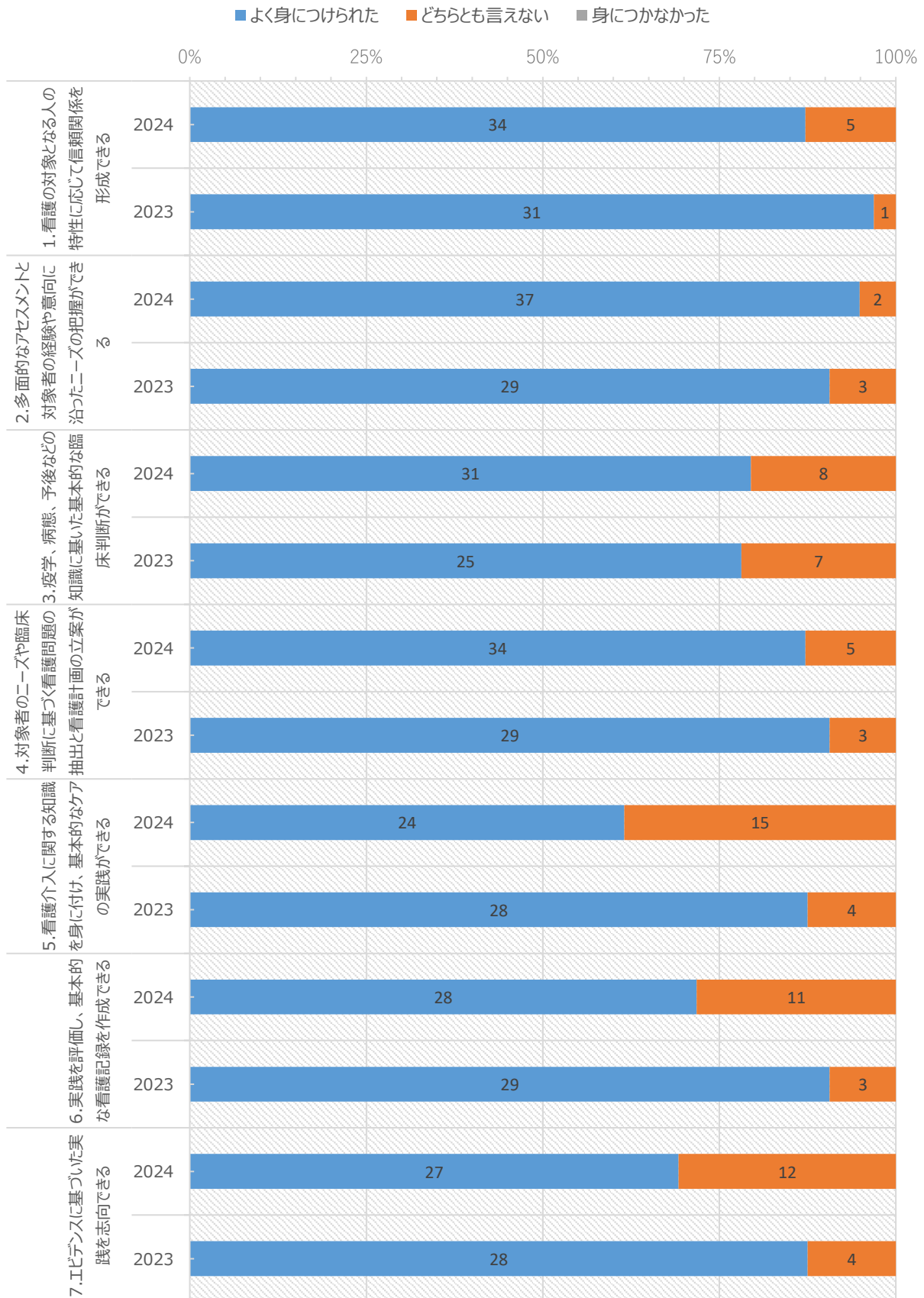
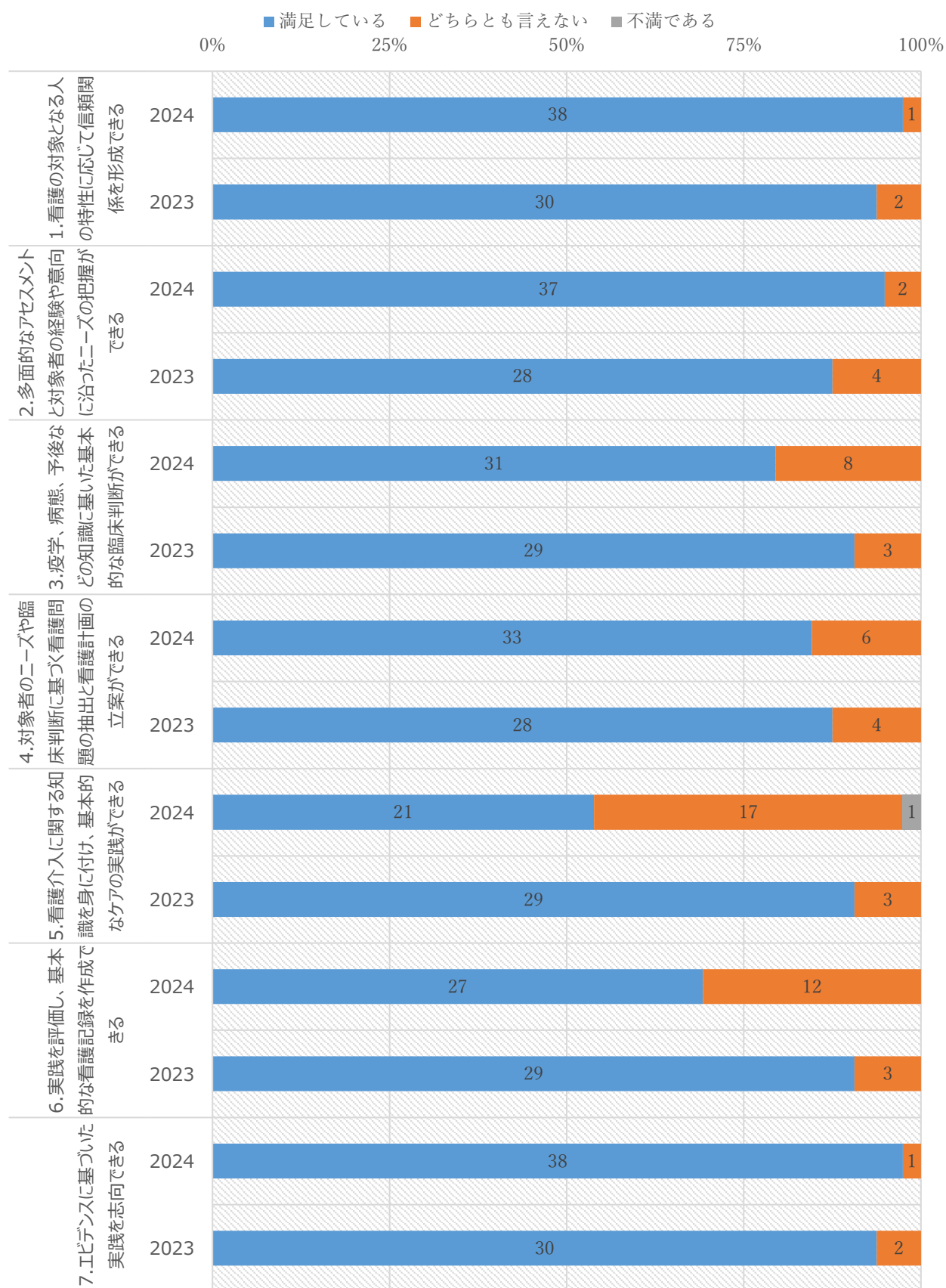


図1-2 専門知識と技能（満足度）の2か年比較



2. 自律的学修能力と応用能力

到達度の「1.自主的に学習を進めることができる」と「5.医療安全の重要性について説明できる」に関し、「よく身につけられた」の回答が昨年度（令和5年度）と比較し、2割程度低下している(P.6, 図 2-1)。満足度の「2.必要な課題を自ら抽出できる」と「3.課題を解決するに当たり、情報の収集法を身につけている」に関し、回答者全員が「満足している」と回答し、高い評価が得られた。

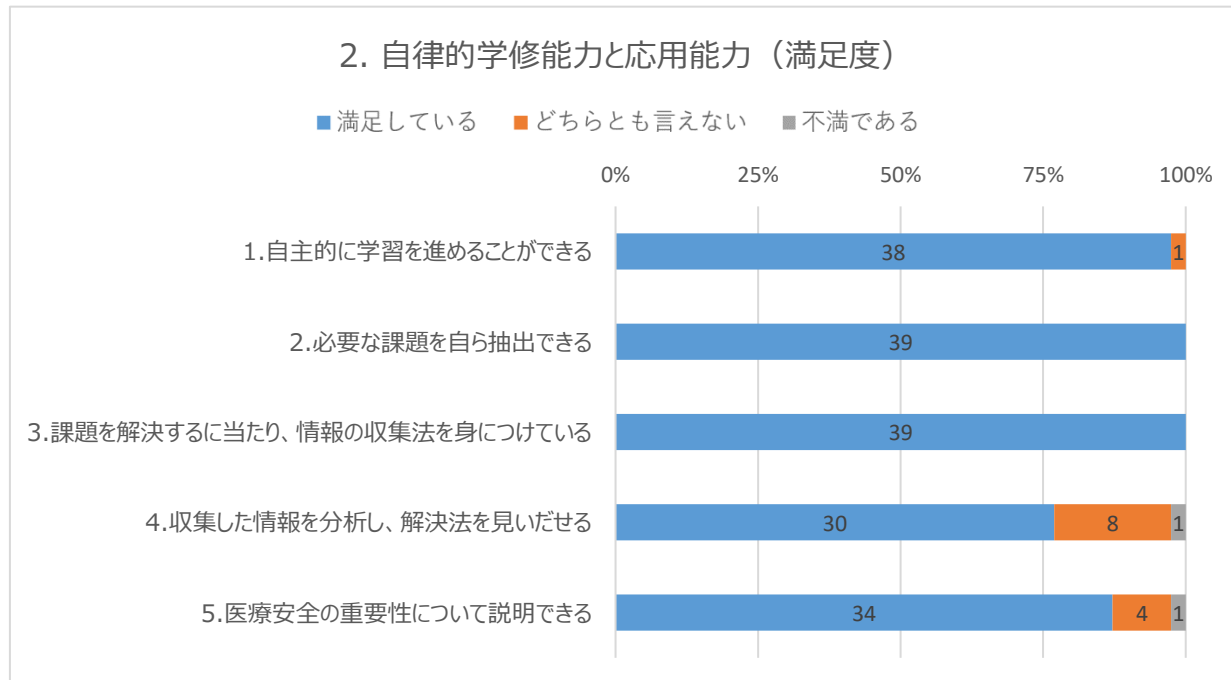
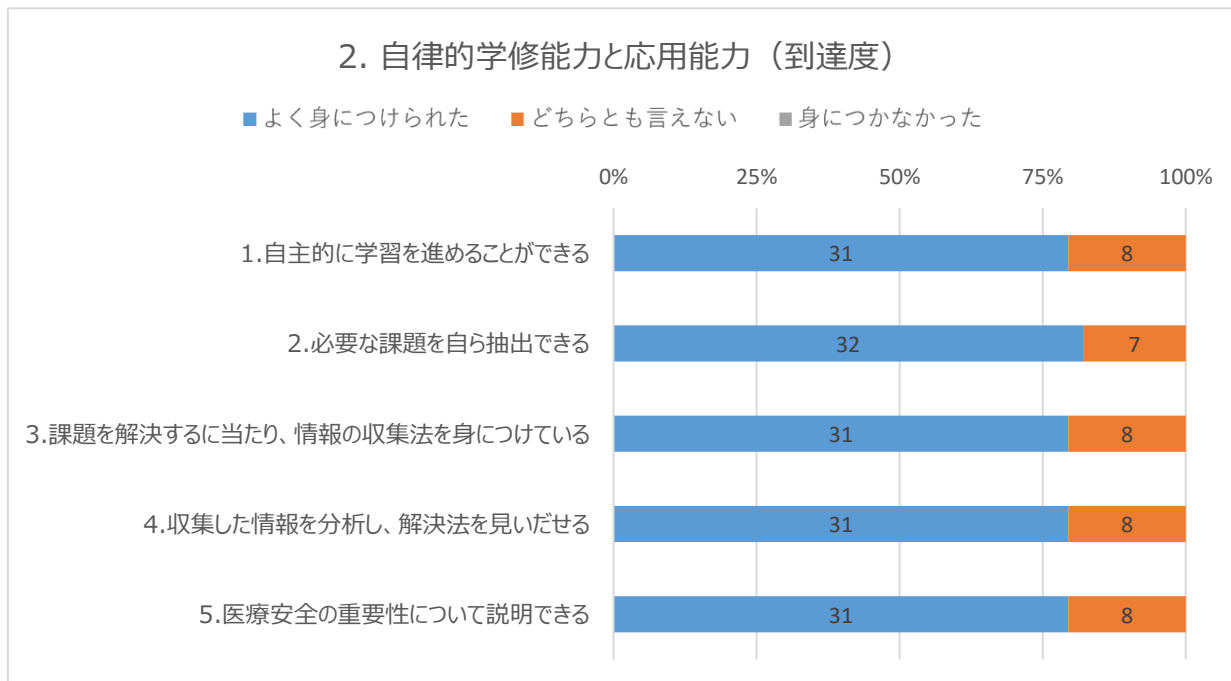


図2-1 自律的学修能力と応用能力（到達度）の2か年比較

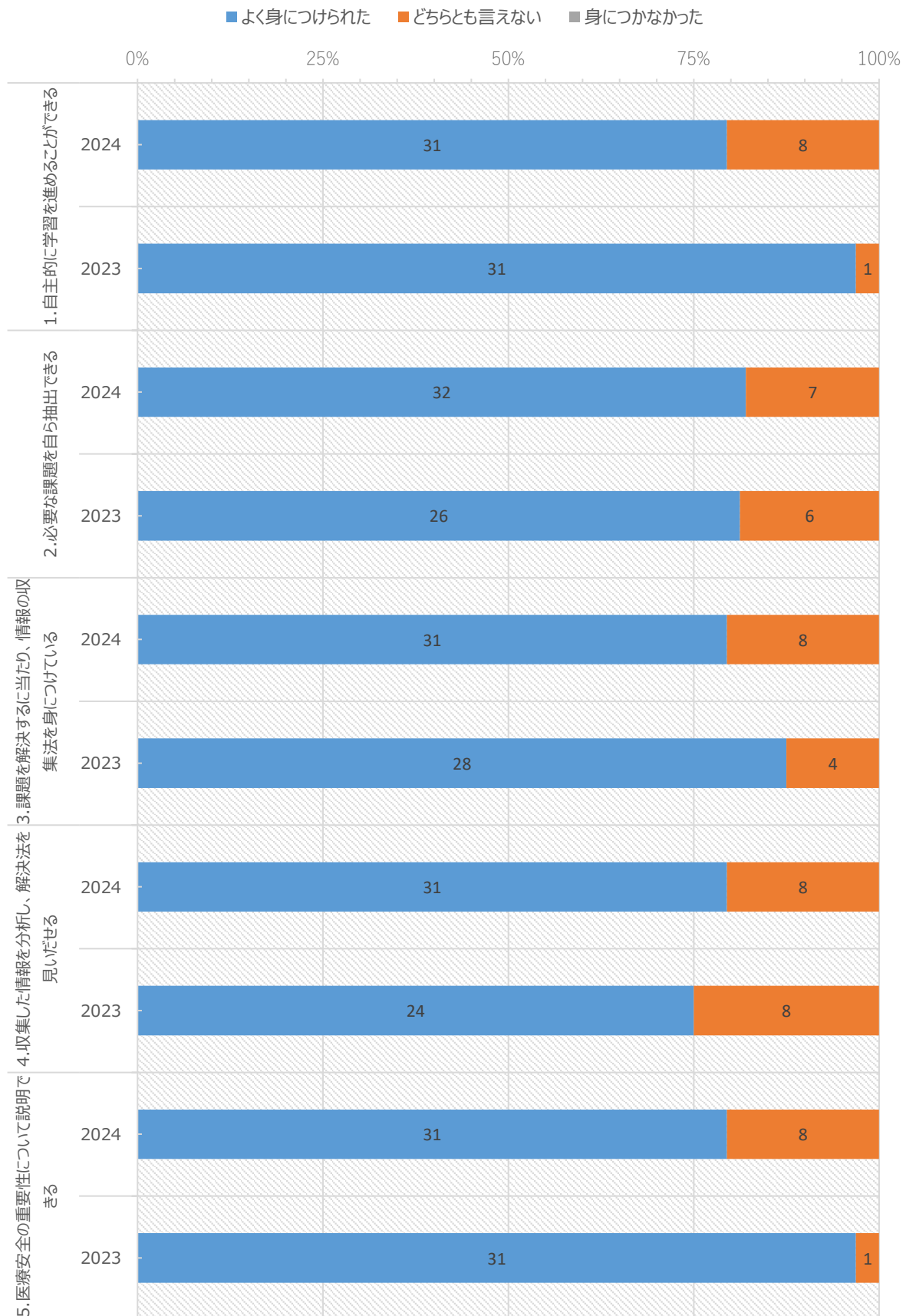
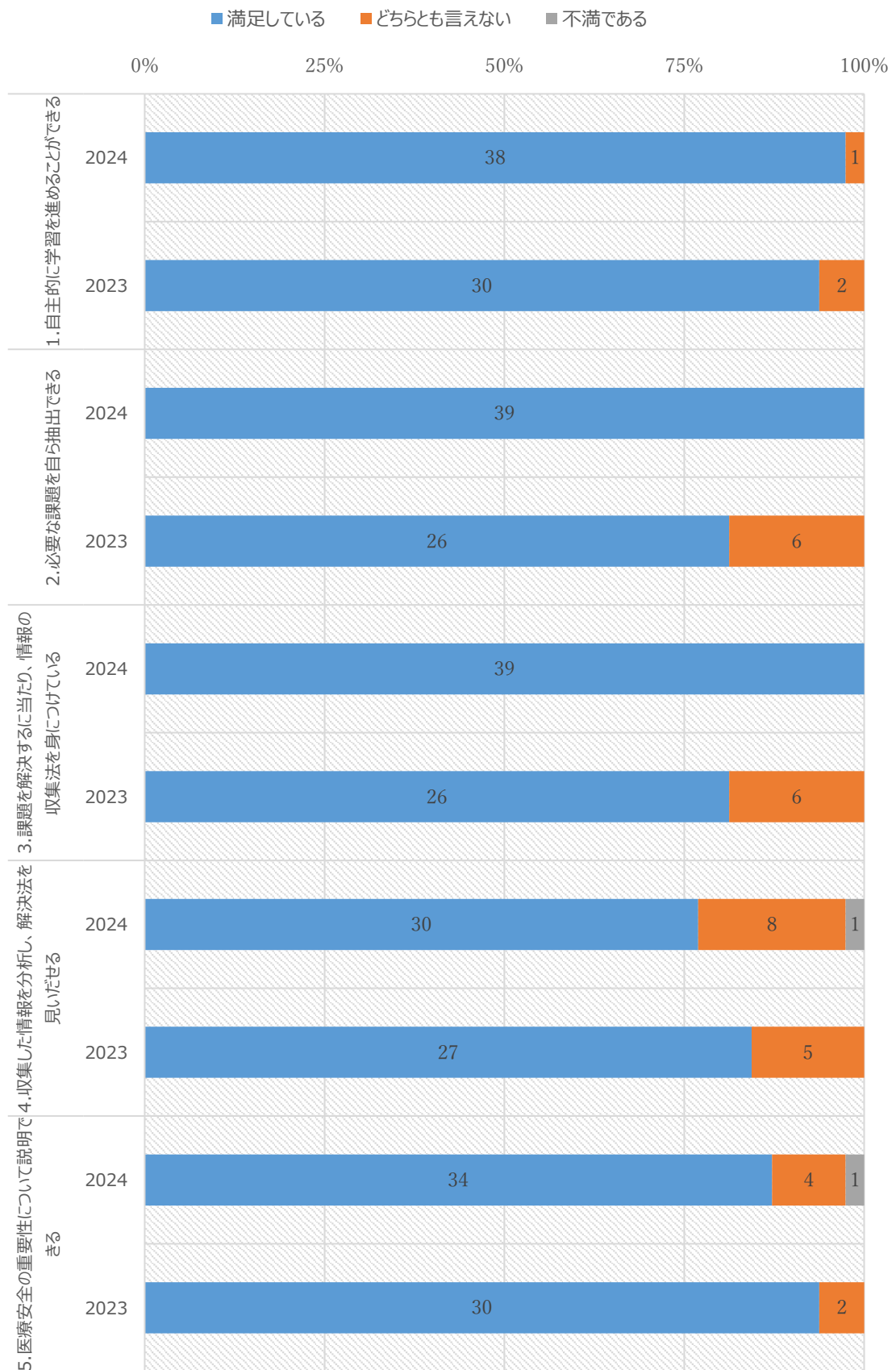


図2-2 自律的学修能力と応用能力（満足度）の2か年比較



3. 豊かな人間性と高い倫理観

到達度においては、「7.看護学・医療の歴史的な流れとその意味を説明できる」を除き、全8項目が昨年度（令和5年度）を下回る結果となった（P.9, 図3-1）。加えて、満足度においても、全9項目において、昨年度（令和5年度）を下回る結果となった（P.10, 図3-2）。満足度の中でも、「1.豊かな人間性に基づいた行動ができる」が、「満足している」の回答が5割を切っており、昨年度（令和5年度）と比較しても著しく評価が低下している。

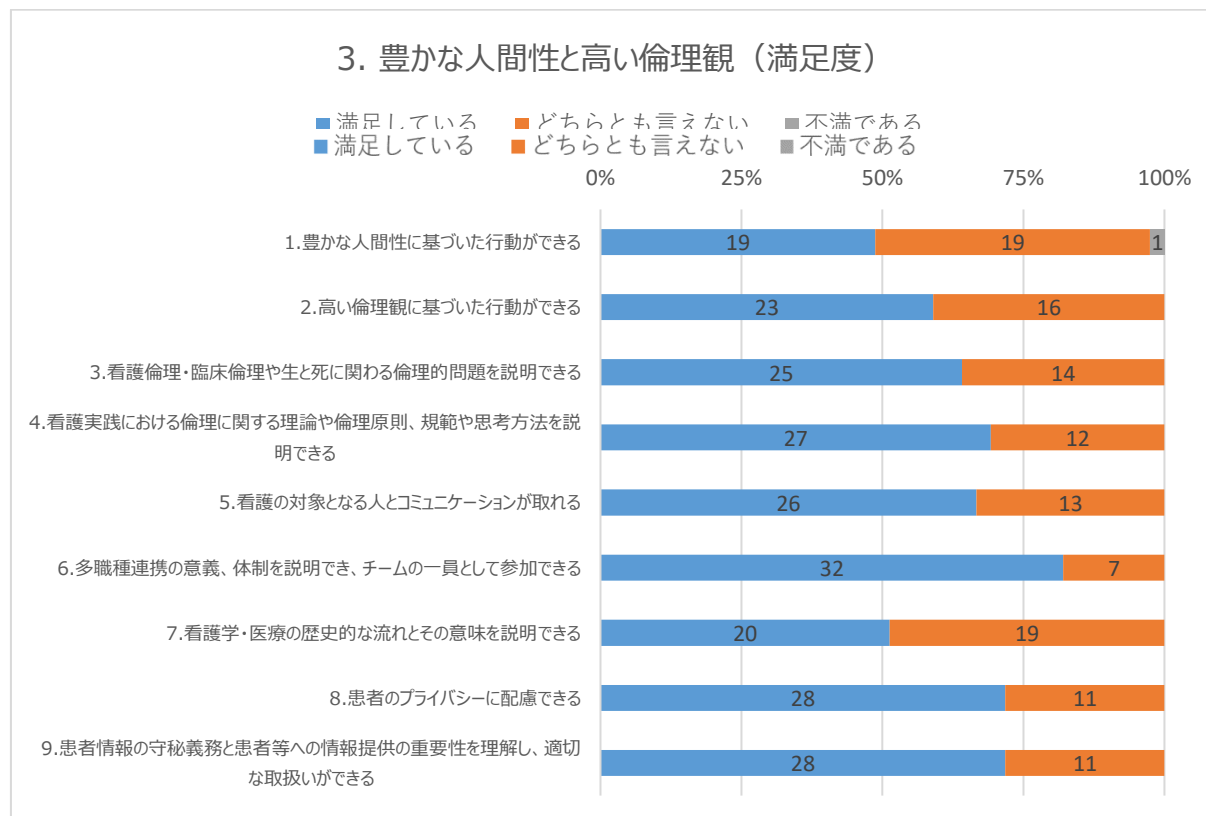
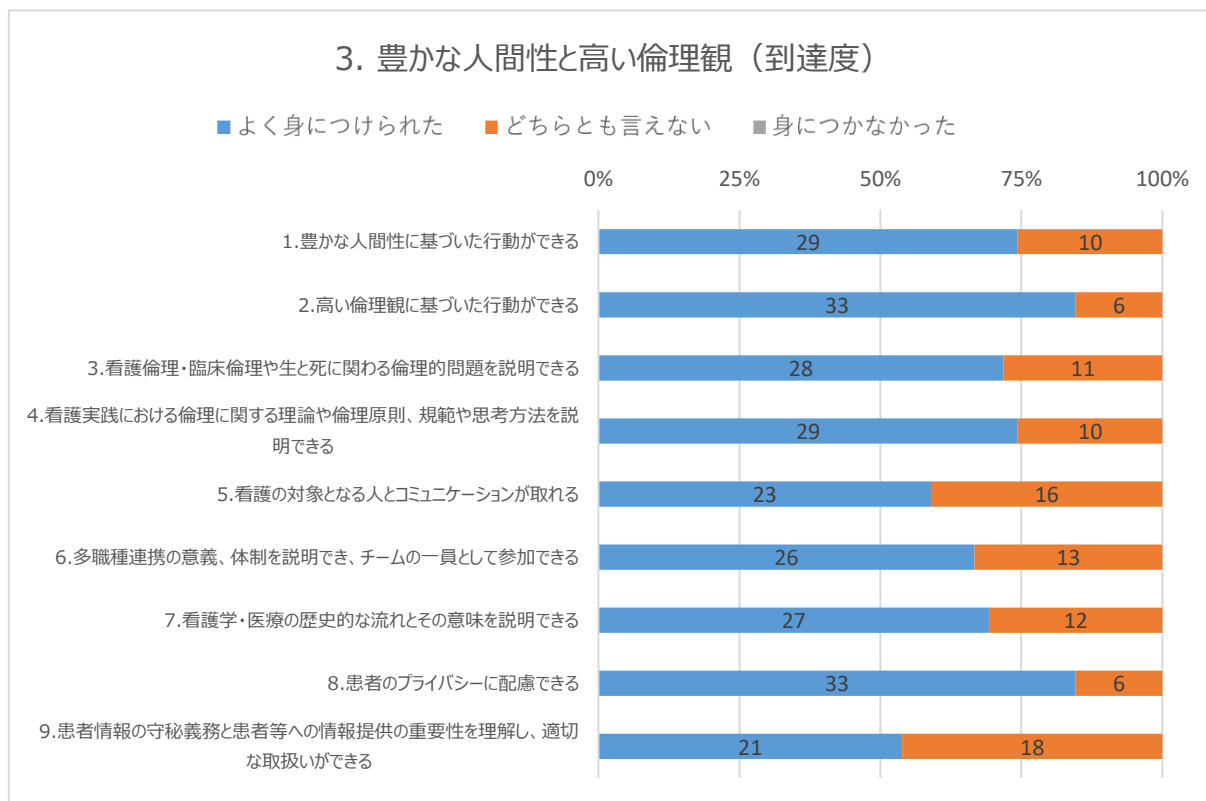


図3-1 豊かな人間性と高い倫理観（到達度）の2か年比較

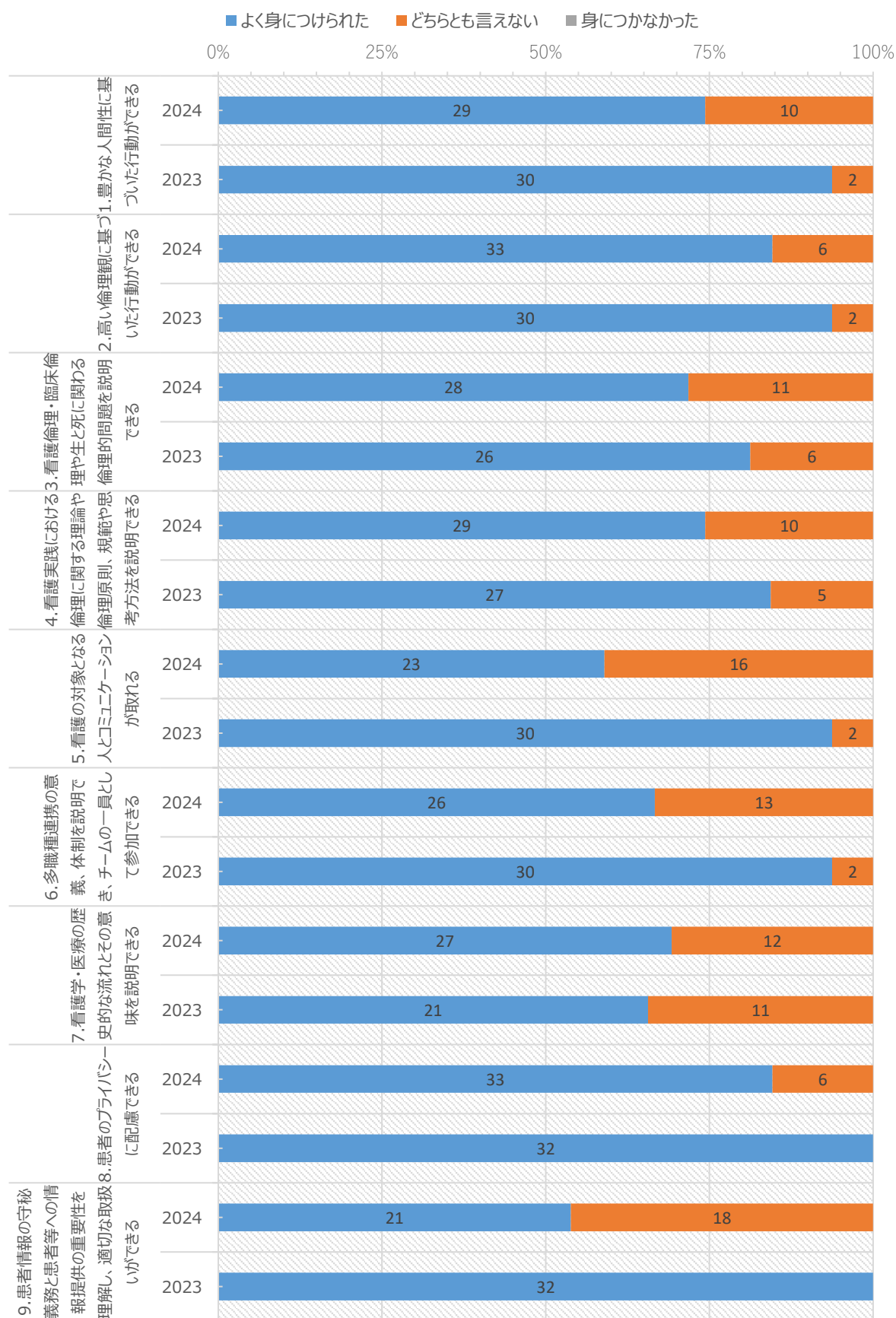
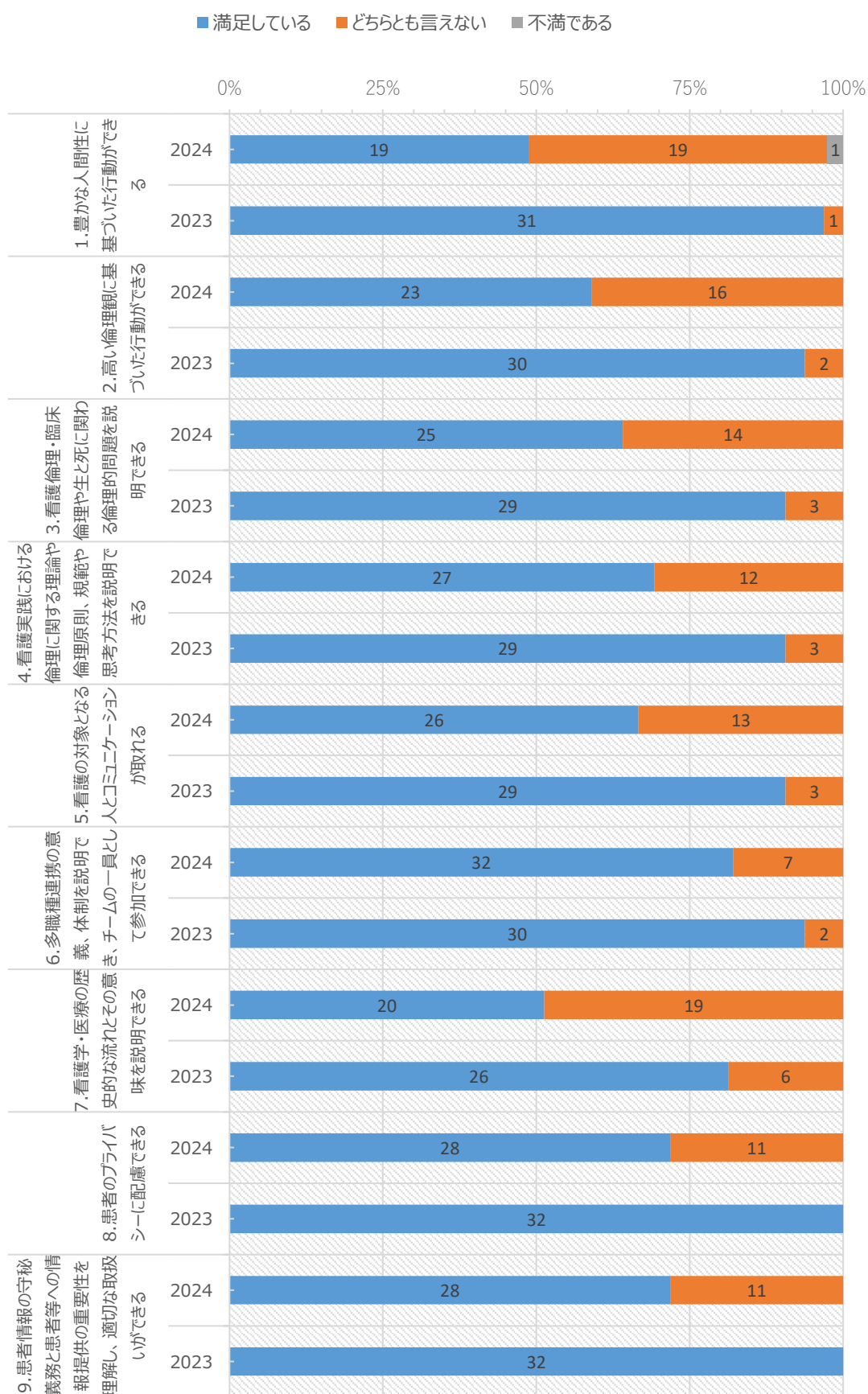


図3-2 豊かな人間性と高い倫理観（満足度）の2か年比較



4. 科学的探究心

到達度において、「1.研究対象となる事象の背景を注意深く観察できる」を除いた5項目において、昨年度（令和5年度）より高い評価が得られた（P.12, 図4-1）。一方で、満足度においては、「2.研究課題を自ら設定できる」と「3.調べた情報を用いて解決策を論理的に見いだせる」の2項目以外は、昨年度（令和5年度）より満足度が低下している（P.13, 図4-2）。

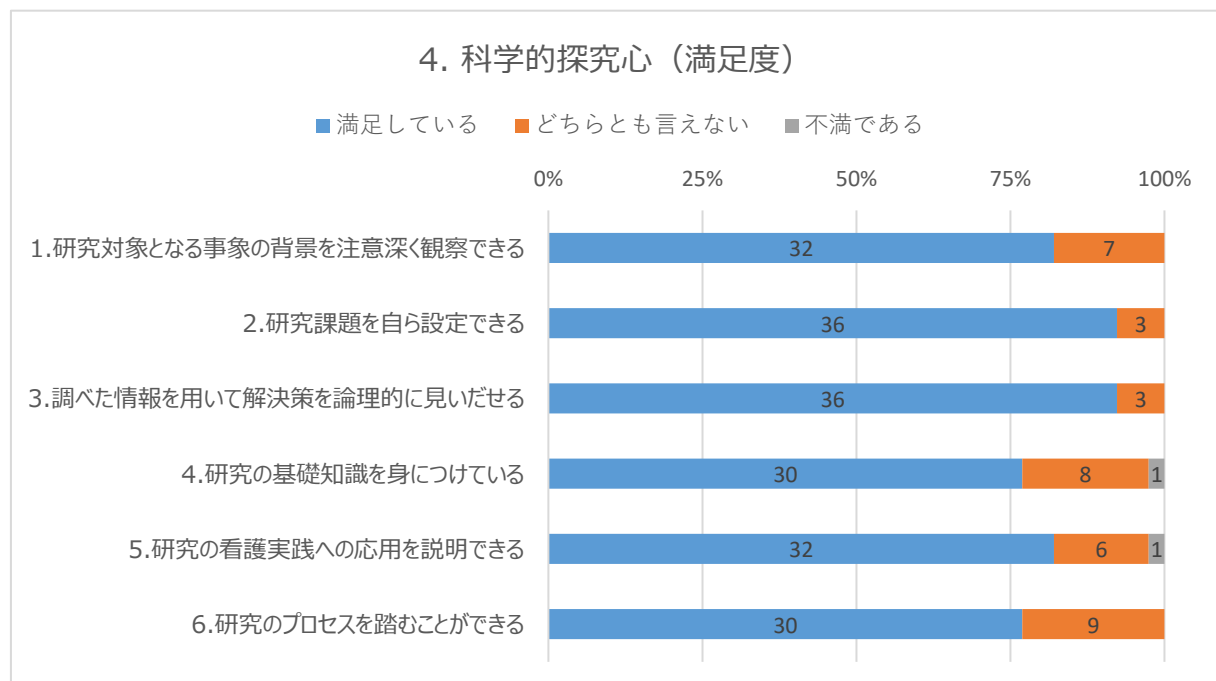
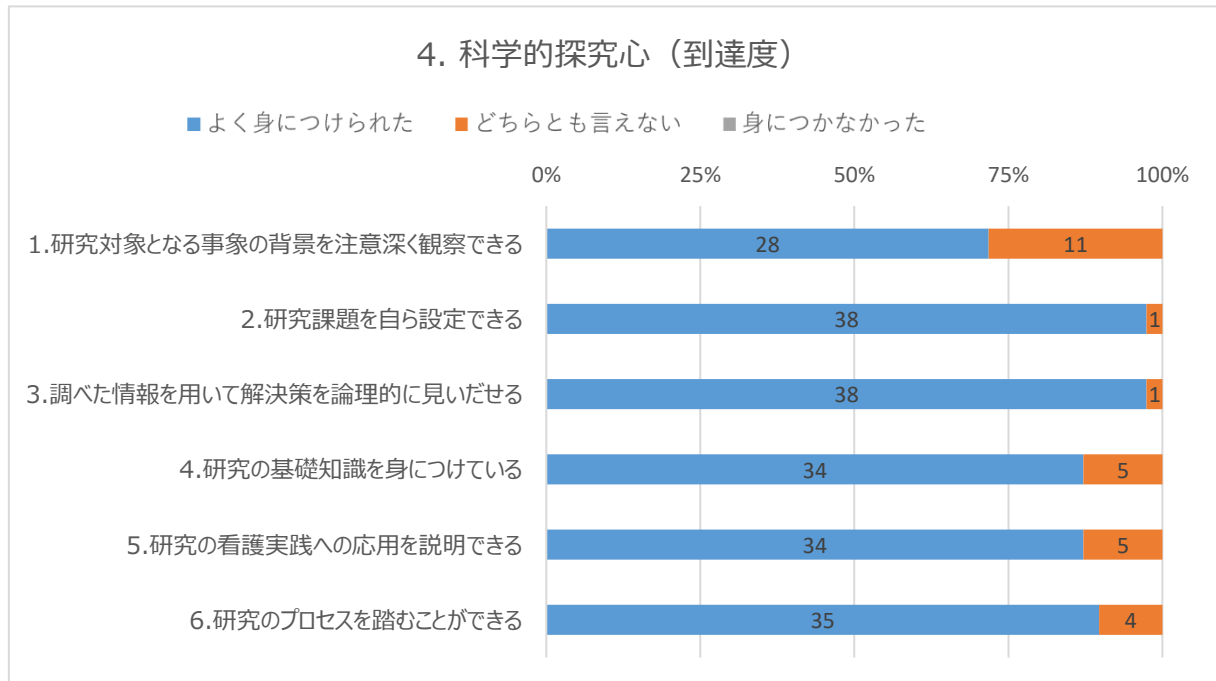


図4-1 科学的探究心（到達度）の2か年比較

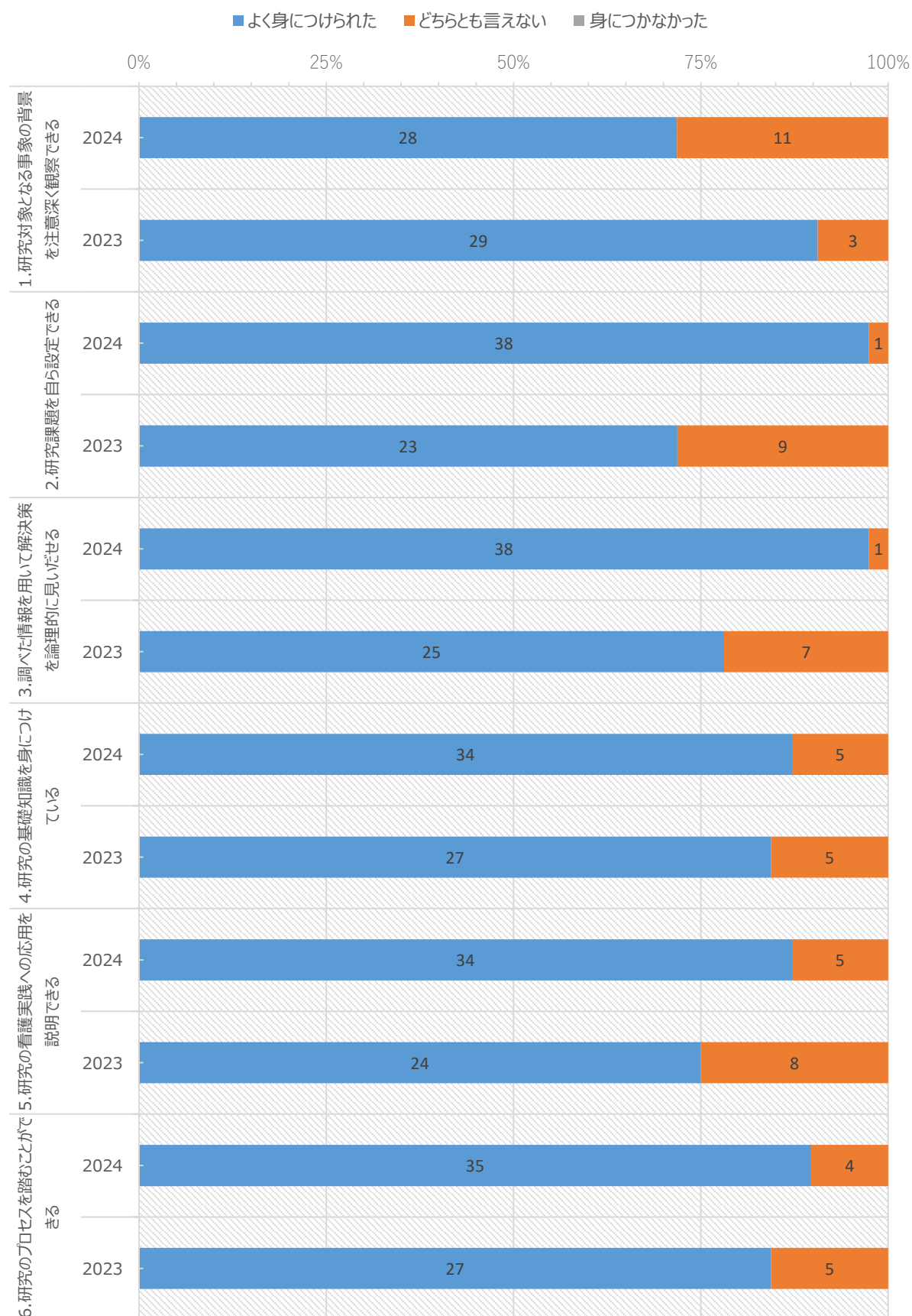
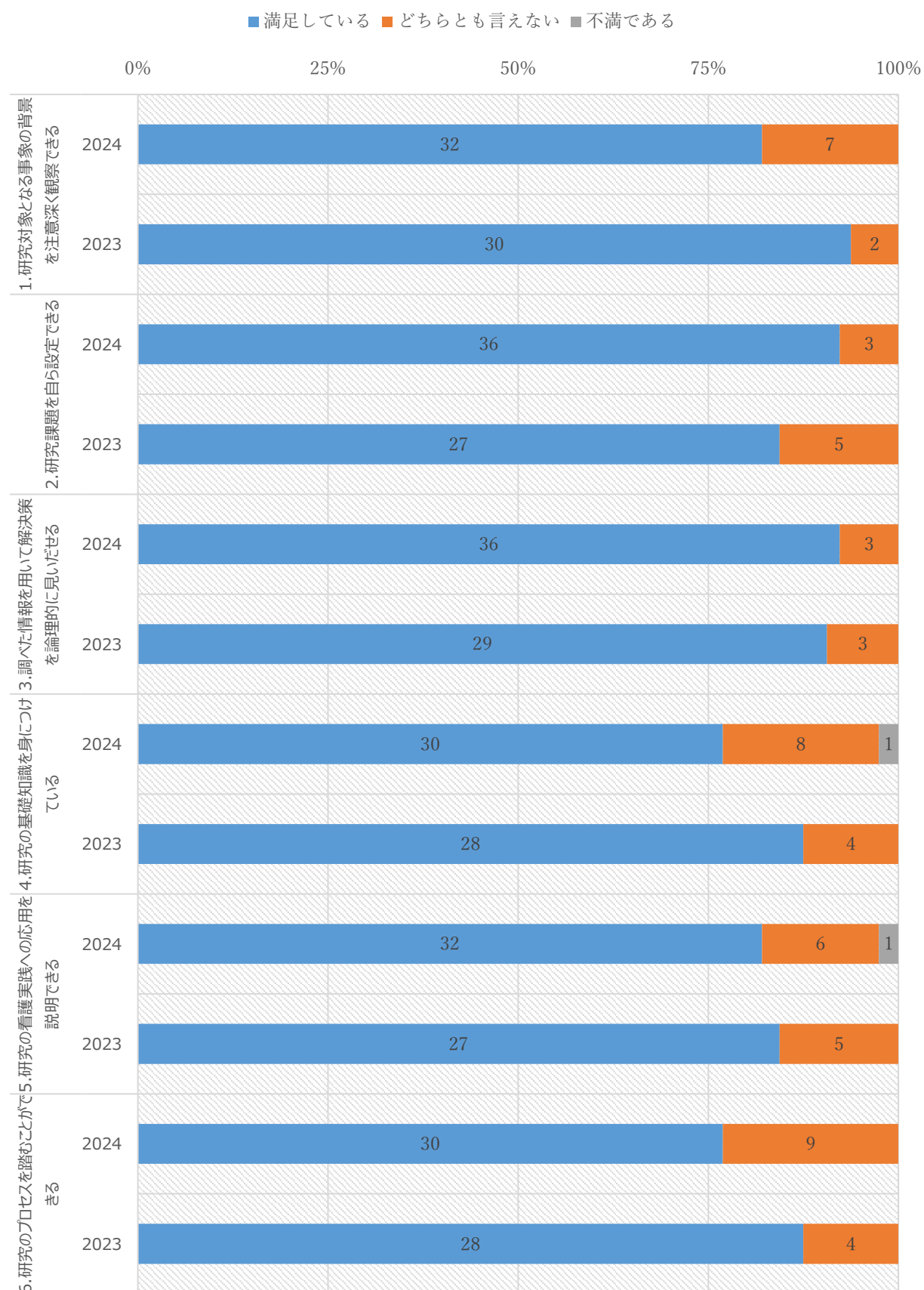


図4-2 科学的探究心（満足度）の2か年比較



5. 社会貢献力

到達度・満足度ともに「4. 国際社会に貢献するための語学力を身につけている」に関して、「身につけられなかった」（到達度）、「不満である」（満足度）の回答がなくなり、昨年度（令和5年度）よりも向上した。（P.15, 図 5-1、P.16, 図 5-2）。一方で、満足度において、「2.地域包括ケアの場で基本的な実践ができる」と「3.多文化社会における医療者の役割について説明できる」に関しては、「不満である」との回答が複数件含まれ、低評価となった（P.16, 図 5-2）。

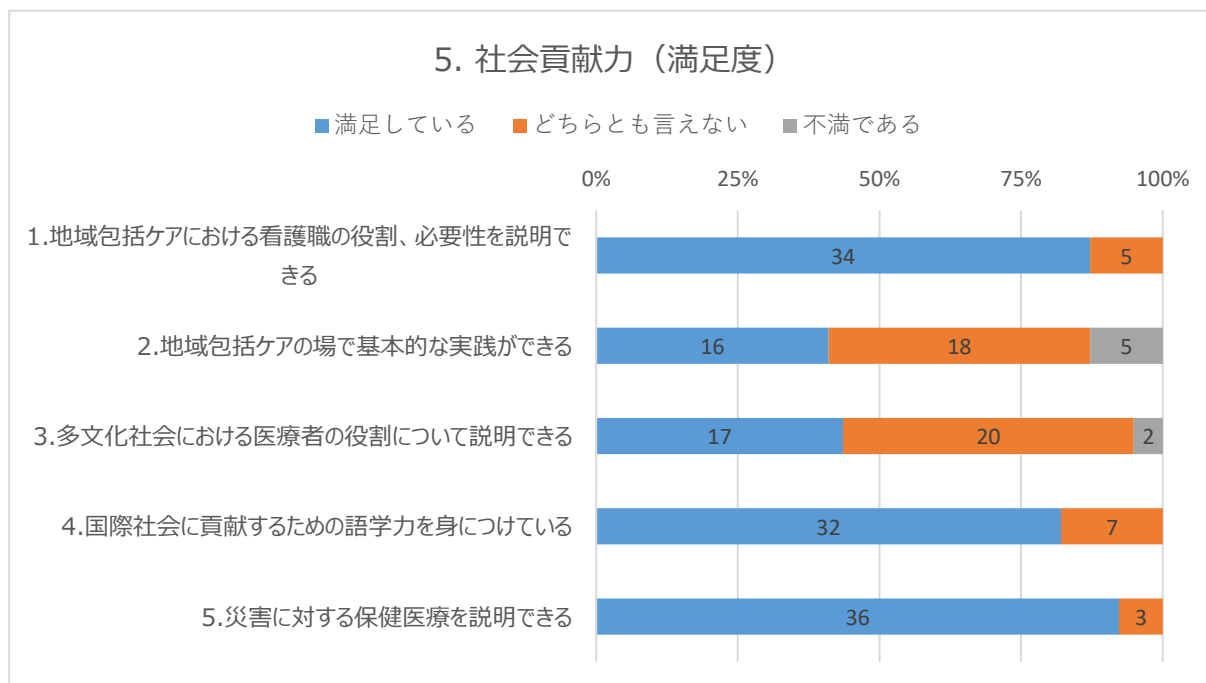
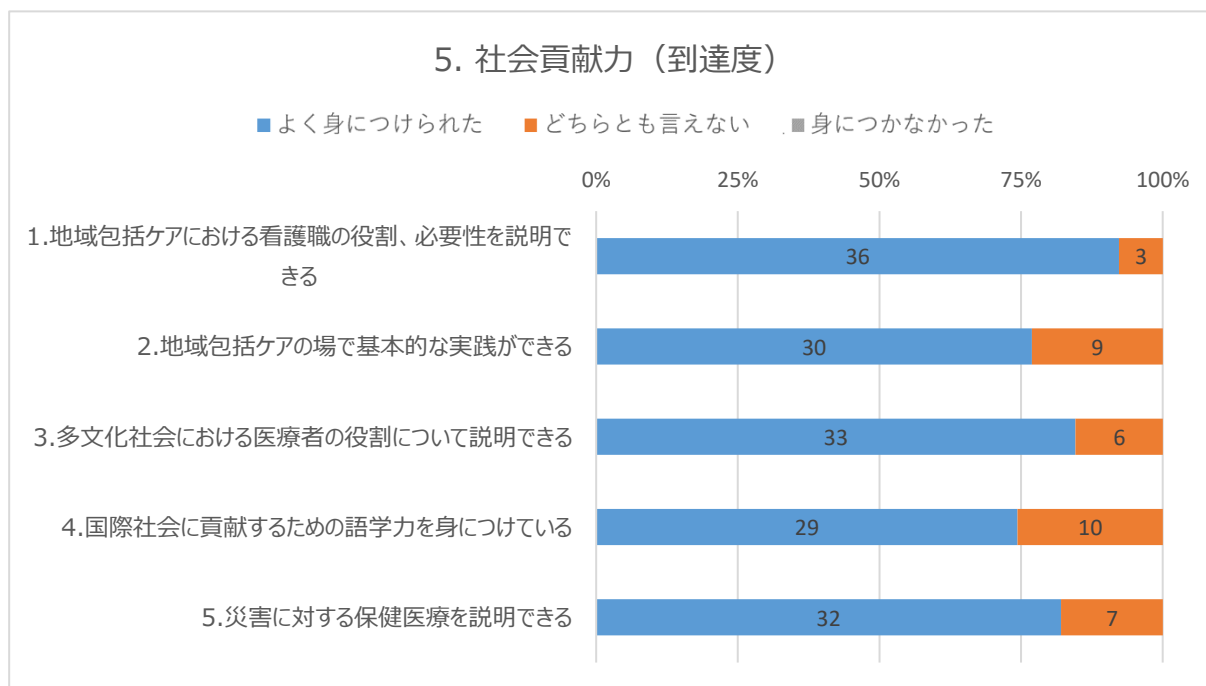


図5-1 社会貢献力（到達度）の2か年比較

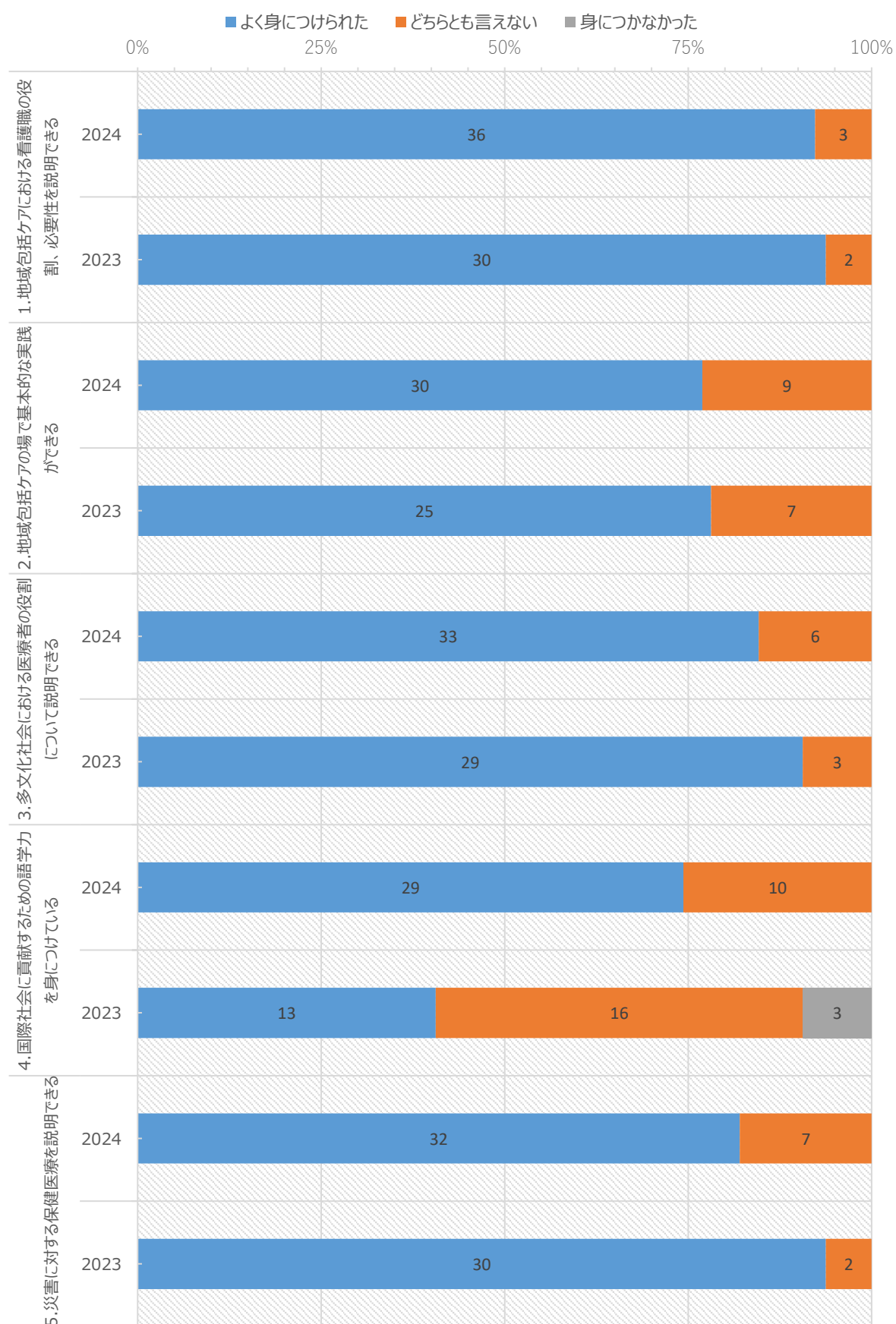


図5-2 社会貢献力（満足度）の2か年比較

